

今の子って、どんな勉強してるの？

授業の進め方の例

教える



全員で

教科書、ノート、ワークシートなどを使って、単元ごとの基礎的な内容を学びます

考えさせる



ペアやグループで

クラスメイトと話し合いながら、学んだことを生かして応用問題に取り組みます

振り返る



個人で

授業で理解したことや話し合いで自分の考えが変わったことなどをまとめ、クラスで共有します

授業はどんな感じ？

教えて考えさせる、子どもと創る授業

学校の授業といえば、先生の説明を聞いて板書をノートに書き写し、

プリントや練習問題に取り組むことを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし、市内の小・中学校では、これまでのように先生が画一的に教える授業から、子どもたちが自ら考え、学ぶ授業への転換を図っています。

この授業スタイルは、クラスメイトとの話し合いや授業の振り返りなど、自分の考えを話したり書いたりする場面が多く、子どもたちが主体的に考え、表現する力を育みます。

この授業スタイルは国語や算数、学活などさまざまな教科で取り入れています。例えば算数では、今知っている式を使ってみんなで解き方を話し合い、共通点を探して自分たちで公式を見つけます



田中先生

発表の場面で、今までは誰か1人と先生とのやりとりだったのが、1人の発言に対して「それについて聞きたい」「それと似てることなんだけど」といった発言が他の子からも出てくるようになりました。自分の知っていることや得意なことを生かして、子どもたち同士で授業が盛り上がっていきます



黒坂先生



市職員が出演して説明します
3月11日(金)
午後5時40分



田中美咲先生

黒坂俊介先生

南小学校の先生に話を聞きました



市内には小学校が14校、中学校が9校あります。「これから子どもや孫が小・中学校に入学する」という方にとっては、子どもたちが日ごろ学校でどんなことに取り組んでいるか、気になるのではないのでしょうか。

今月号は、岩見沢の学校教育の特色や、市内の学校全体で力を入れて取り組んでいることを紹介します。この記事を通して、岩見沢の子どもたちの学校生活を想像してみましょう。

問合せ先 市教委指導室(4西3 であえーる岩見沢4階) ☎ 35-5127

タブレット端末の活用

文部科学省のGIGAスクール構想により、市内小・中学校のすべての子どもたちにタブレット端末を配置しました。また、各教室には65インチの大型モニターを設置し、インターネットでタブレットなどと接続して、授業で活用しています。

子どもたちは、学習補助ツールで自分の考えを整理したり、入力した自分の考えをグループやクラスで共有したりと、授業のさまざまな場面でタブレットを活用しています。また、学級閉鎖などの際は、タブレットを家に持ち帰ってオンラインで授業に参加したり、先生が作った授業の動画を視聴したりと、子ども



GIGAスクール構想
令和元年から始まった、全国の小・中学校で1人1台のコンピュータと高速ネットワークを整備する取り組み

たちの学び方の幅が広がっています。



南小では、子どもたちがいつでもタブレットを使えるようにしています。授業以外でも、子どもたちのアイデアで児童会の選挙活動の動画を撮ったり、放送委員会で番組を作ったりしています

タブレットが導入されて1年ほどたちましたが、子どもたちのスキルは日に日に上達しています。タブレットの操作はもちろん、子どもたちは「どんなときに何をを使うといいか、ということも考えて、私たちに教えてくれます



新たに学んでらるるって

プログラミング教育

小学校では、令和2年度からプログラミングの学習が必修となりました。必修といっても、コンピュータの複雑な操作を勉強するのではな



算数の図形の単元では、プログラミングで「直線を描く。90度に曲がる。」といった指示を出して図形を描きます。どんな指示でどう動くか、子どもたちは試行錯誤しながら取り組んでいます

く、物事を順序立てて考える力（プログラミング的思考）を育むことを目的としています。現代では必要不可欠なICT機器を使い、さまざまな情報を選択して活用する力や論理的な思考を働かせる力を身に付けるため、教科の枠を超えてプログラミング教育に取り組んでいます。

プログラミング
専用の文字列などを使ってコンピュータに指示を出す技術



プログラミングは全学年で取り入れていて、電気をつけたりロボットを動かしたりといったことも行っています。休み時間から作業を始める子もいるほど、子どもたちも楽しんでます

心の教育

道徳が、特別の教科道徳となり、教科書が配布されました。道徳が教科になったことで、ただ教えるのではなく、多様な価値観や思考に働き掛け、子どもたちが心を整理し、自分を見つめ直すことを目指した授業を行っています。

ピア・サポート

子どもたちの自己肯定感を高め、主体的で協働的な授業づくり、より良い仲間づくりを進めるために、ピア・サポートプログラムを実践しています。

ピアは「仲間」サポートは「支える」を意味します。子どもたちが他者と関わる中で、思いやりの気持ちを持って話を聴き、一緒に考え、異なる意見も認め合い、より良い人間



ピア・サポートの授業（明成中）

関係を築く力を育むための活動に取り組んでいます。

授業で自分の考えを発表する場面も、互いの関係が良くなければ成立しません。南小では週に1回、みんなでわいわい話しながらお互いを認め合う「ちょこっ」とピアサポート、という活動に取り組み、授業やクラスの雰囲気づくりに生かしています



ふるさと教育

まちの歴史や文化、自然などを学ぶことを通して、子どもたちが岩見沢をもっと好きになれるようにつぶささと教育を行っています。



炭鉄港の授業（東光中）



大豆まき（中央小）

南小では、農作物の収穫・販売体験や商店街のCM・パンフレットづくりなどを行っています



先生にも学びの場を

この授業では、農家や地元企業・団体で働く人などを先生として招くこともあり、子どもたちが地域の人と関わる貴重な機会でもあります。

学ぶことが多くなった子どもたちも大変ですが、それに対応する先生も学び続けなければなりません。

市教委では、教育の変化に対応し、質の向上を目指して、先生向けの「経営塾」「養成塾」「実践塾」を平成28年度から開設しています。年に8回から10回程度、先生の年代や立場に

小学校から英語を

小学3年生から英語の学習が始まります。3・4年生は「外国語活動」、5・6年生は教科としての「外国語」の授業を行っています。

英語を使える岩見沢の子どもへの育成を目指し、英語を母国語とする外国人講師（ALT）がすべての小・中学校の授業に参加しています。一部の中学校では、日本語を使わない「オール・イングリッシュ」の授業を行っており、今後は市内すべての中学校で取り組んでいく予定です。



特別支援学級での取り組み「クチトレ」



クチトレ

特別支援学級では「クチトレ」に取り組んでいます。クチトレは口と口の周りの筋力を高めるトレーニングで、脳にさまざまな良い影響を与えることが期待されています。これまでにコミュニケーションなどの自立に向けた力が向上した例などが報告されており、現在、希望者を対象に効果を検証しています。

合わせたテーマで行い、これまでに延べ500人以上が受講しています。教育実践の各分野で全国の第一線で活躍している先生を実践研究の講師として招いています。

昔と今とで、子どもたちが学んでいることの違いに驚いた方も多いのではないのでしょうか。しかし、どの時代でも、より良い学校教育が人を育て、人をつなぎ、人を集め、より良い社会を形成する力となります。市はこれからも「子どもが輝く岩見沢」を目指し、教育づくりを進めていきます。